物流ニッポン　2024年4月9日付19面

売上高50億円めざす

拠点増・通関業進出で

三鷹倉庫■5カ年経営目標

5月に設立から60年を迎える三鷹倉庫（関武士社長、大阪市生野区）は、2029年3月期までの5カ年経営目標として、「売上高50億円、営業利益率5%、地域・社会貢献率5%の達成、維持」を掲げる。新型コロナウイルス禍で主力のアパレル物流の需要が落ち込んだことから、減収増益の経営方針を取ってきたが、23年3月に兵庫県西宮市、8月に東京都大田区、24年2月には兵庫県尼崎市で新拠点が竣工、増収増益に向けかじを切っている。（根来冬太）

止水シャッターを示す関社長（メイクアグッドロジ尼崎）

「人材投資のため挑戦」

兵庫県西宮市の中国自動車道・西宮北インターチェンジ（IC）至近に地上4階建て、延べ床面積2万9300平方㍍の西宮北インター倉庫をオープン。東京都では、首都高速道路1号羽田線の平和島出入り口から1㌔の東京流通センター（大田区）内に、延べ床面積1300平方㍍の拠点を開設した。

更に、兵庫県尼崎市に地上4階建て、延べ床面積1万1千平方㍍の「MAKE A GOOD LOGI（メイクアグッドロジ）尼崎」を竣工させた。これにより、国内は18拠点（関西11、関東7）体制となった。

拠点は大阪、兵庫の関西エリアと東京、神奈川、千葉の関東エリアに集中して開設することで、ドミナント戦略により人員の確保、流動的な配置や物流コストの抑制を図っている。倉庫はリースも行っている。

メイクアグッドロジ尼崎は、東日本と西日本を結ぶ中継拠点として活用できる。物流のグループ企業を立ち上げるなど貿易事業にも注力しており、三鷹倉庫でも通関業の許可を取得。通関士を3人配置し、通関業務に進出している。グループ企業と連携し、特に中国、東南アジア向けEC商品の物流などをワンストップで物流を手掛ける拠点を増やしている。また、従業員を中国人のみで構成する国際徒歩13分、名神高速道路・尼崎ICから1・5㌔の好立地にある。アパレル以外の需要も見込み、新規顧客の開拓を狙う。1階の開閉部には浸水防止のための止水シャッターも設置している。

三鷹倉庫の売上高は21年3月期に51億1千万円まで伸びていたが、23年3月期は41億7600万円に減少。不採算事業の見直しなどによるものだが、利益率は向上した。アフターコロナを見据えて投資を行った今期（24年3月期）は、45億円ほどになる見込みで、今後も倉庫の稼働率向上による増収を見込んでいる。

倉庫増設以外の取り組みでは、コロナ禍の外出自粛により店舗を構えるアパレル物流の需要が減った経験から、EC（電子商取引）行う。

ソフト面では、23年から24年にかけて①営業DX（デジタルトランスフォーメーション）②PR・広報③企業ブランディング④現場業務改善の「見える化」⑤事業継続マネジメントシステムの国際規格ISO22301の取得――のプロジェクトを推進。新たな人事・処遇制度をスタートさせ、人材定着にも取り組んでいる。

関社長は「事業拡大への方針転換に疑問の声もあったが、雇用の維持、賞与アップといった人材投資を行うために挑戦するべきだと判断した。社会貢献活動も積極化させ、当社で働くことが誇りとなるような体制を目指していく」と話している。